

【課題研究2】「教育行政学における基礎概念および重要命題の継承と発展（1） —ポスト戦後社会における規範・理念の定立と事実分析との往還—」

第19期研究推進委員会では、今年度大会で開催される「課題研究1」と並行して、「課題研究2」を「教育行政学における基礎概念および重要命題の継承と発展—ポスト戦後社会における規範・理念の定立と事実分析との往還—」と題して企画している。

本企画においては、タイトルに示されている「教育行政学における基礎概念および重要命題」を総合的に議論するとともに、これを「継承、発展」させるための教育行政学の研究者養成の課題について検討することを目的としている。1年目となる本年度は「戦後教育行政学を担ってきた研究者の理論的な蓄積と学問領域への貢献の再評価の試み」を課題として、本学会の会長、理事経験者で学問系譜の異なる三者に登壇いただき、教育行政学の「命題」とは何か、また、この命題の解明にあたりどのような「方法」を用いてきたのかを報告いただく。教育行政学における基礎概念を共有することで、次年度以降に展開されるべき議論の土台を構築したい。報告者各自の研究枠組み、蓄積、継承されてきた方法や命題を素材としながら、戦後日本の教育行政学全体で蓄積されてきた理論、方法、そして、そこで「命題」とは何であったのかを、参加者ととも議論することを予定している。

〔開催日時〕

2020年12月13日（日）13:00～16:30

〔開催形態〕

Zoomを用いたオンライン研究会として実施いたします。ミーティングURL等につきましては、会員一斉メールを通じて後日お知らせします。

《第1回研究会の登壇者》

報告1：広瀬裕子（専修大学）「東京大学系譜の教育行政学—理論枠研究アプローチ—」

報告2：河野和清（京都光華女子大学）「広島大学系譜の教育行政学—実証的研究アプローチ—」

報告3：大桃敏行（学習院女子大学）「東北大学系譜の教育行政学—史資料分析アプローチ—」

指定討論：山下晃一（神戸大学）

《司会》

清田夏代（実践女子大学）

高橋 哲（埼玉大学）